

お子様がご入学を迎える
保護者のみなさまへ

これで安心!!
新1年生



contents

- 入学に向けてこんなことを p.1
- できるかな p.7
- 学校での表れや心配なこと p.9
- こんなことも心にとめて p.11
- 1年生の4月～7月 p.13

静岡県教育事業団体連絡会
教育と生活をサポート

後援：静岡県校長会、静岡県PTA連絡協議会

入学に向けてこんなことを

その1

小さな成長・挑戦・努力に注目して

「這えば立て、立てば歩めの親心」は、保護者の心情として当然です。でも、入学前に「もうすぐ1年生でしょー!」と言って、できていないことを次々と指摘し、やらせようとすると、子どもの心は疲れてしまい、小学校生活への期待や希望を委縮させてしまいます。子どもにとって、頭で理解することと身に付くことは違いますから、長い目で見て、焦らずに、くり返し教えて、生活に必要なことが身に付くようにしましょう。

その際、どんなに小さなことであってもできるようになったことや、挑戦する姿勢や努力している姿に注目して、「できたね」「がんばっているね」「小学生になる準備が進んでいるね」などと声をかけてあげると、子どもの中にやる気と自信がふくらみます。これが、新しいことや困難に立



©静岡県

ち向かうエネルギーとなります。また、自己肯定感を育む上でも大切なことです。この時期に関わらず、この保護者の姿勢が子育ての「ツ」ではないでしょうか。



その2

夜型から朝型へ…「早寝早起き朝ごはん」「排便」等の習慣化を

子どもの睡眠時間は十分にとれていますか。「遅寝・遅起き・朝食抜き（または、時間がなくほとんど食べない）」の子どもは、エネルギー不足となり、朝から気持ちが悪くなったり、授業中にぼうつしたり、外で遊ぶことも好まなかったりという傾向が見られます。

小学校低学年の子どもの睡眠時間は、10時間以上とりたいものです。寝る時刻と起きる時刻を決めて、睡眠リズムを整えましょう。あわせて「早寝・早起き・朝ごはん」「排便」の習慣も身に付くといいですね。

この生活のリズムが土台となって、自立心が芽生え、集中力が身に付き、仲間と一緒に遊んだり、勉強したりする中で、心も身体も健やかに成長していくことでしょう。

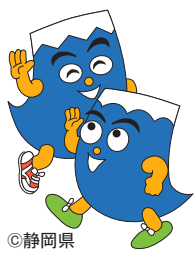
その3

あいさつ、返事「ありがとう」を

学校には大勢の友達や先生がいます。登下校の安全の見守りや勉強に協力してくださる方々もいます。友達や先生や学校に関係する人たちに、あいさつや「ありがとう」が言えたり、名前を呼ばれたときに、「はい」と応えられたりすると、言った自分も言われた相手も気持ちがよくなります。そして、次の会話が生まれやすくなります。

返事やあいさつ、「ありがとう」は、人とのいい関係をつくる始めの一步です。これらの言葉を、家族で楽しく交わし合うことで、子どもにも自然に身に付くことでしょう。

また、入学式の次の日の朝、多くの学級で自己紹介をします。「〇〇です。よろしくお願ひします」といった簡単なものですが、ここでお互いに友達の名前を知り、1年生なりにどんな子かなと見当をつけます。みんなに知ってもらえるチャンスです。はっきりした声で自分の名前を言うように練習しておくとういすね。



©静岡県

その4

聞くよ、話すよ

子どもは、本来話すことが好きです。自分が思ったこと、感じたことを、家の人に話しかけます。また、「なぜ?」「どうして?」を連発し、家の人が困るほど質問してきます。このとき、家の人が子どもの話を聞いてねいに聞き、共感的に受け止め、気持ちを理解してあげると、子どもの心は満たされ、話すことに対する意欲もふくらんでいきます。また、知的好奇心も育まれます。

自分の話をしっかり聞いてもらった子、受け止めてもらった子は、友達や先生の話もしっかり聞ける子、受け止める子に育っていきます。

あまり話しながらない子には、家の人が穏やかな雰囲気の中で、園などでやったことや思ったことを質問し、うまく表現できないことがらや気持ちを「……」と思っただね。」などと、言葉にしてあげましょう。家の人の言い方を聞きながら、子どもは、自分自身の気持ちに気づいたり、自分の気持ちや思ったことの表し方を学んだりするものです。



その5

自分のことは自分で

遊んだあとの片付けや使った物の後片付けはできていますか。小学校入学を片付け上手になるチャンスにしてみたいかがでしょうか。まず、子どもと相談して「おもちゃを置く場所」「宝ものを置く場所」「ランドセルや学用品を置く場所」を決めましょう。そうして、使い終わったら決めた場所に自分で戻すように励ましましょう。自分でできたときに、「すっきりしたね。気持ちがいいね」と声をかけることが習慣化につながります。

また、衣服の着脱も入浴前後を使って練習しましょう。ボタンの数があまり多くない服を選んでおくのも、まだ指の動きが十分でない子どもには必要かもしれません。あわせて、脱いだ衣服を乱雑にならない程度にたたむ練習もしておくとういすね。

使った物の片付けや衣服の整頓は、次の時間の学習へのスムーズな移行につながり、「自立」への確かな歩みとなります。



イラスト／村松麗子

鉛筆

正しく持てるかな？

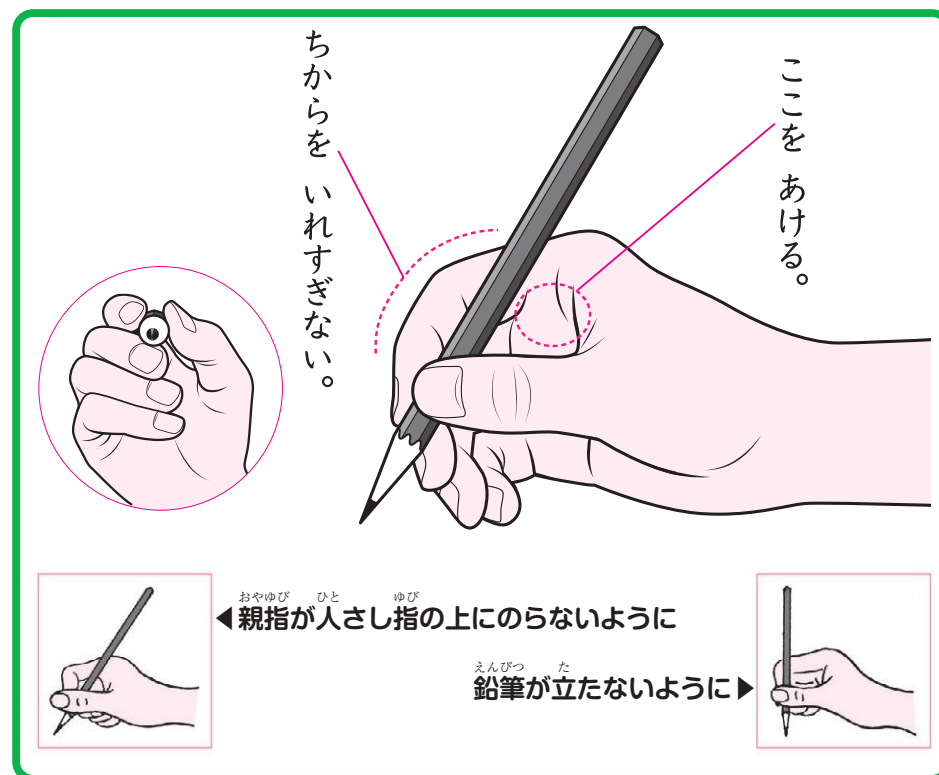
ひらがなは、基本的には学校で習います。しかし、入学した日から机、靴箱、ロッカーなどには名札が貼ってあります。ですから、入学までにひらがなで書かれた自分の名前が、たて書き・横書きともに読めるようになっているとよいでしょう。

入学前に字を覚えたがる子もいます。そんなときには、少しあと押しをして、興味・関心、意欲をさらに高めてあげるとよいですね。鏡文字（左右が逆）を書く子もいます。無理に改めず、正しい字と見比べ、まちがいに気づかせる程度にとどめましょう。

また、左利きの子に無理矢理右手で書かせる必要ありません。この時期に大切なことは、「文字を書く楽しさ」や「文字で伝えられる喜び」を実感する（味わう）ことです。

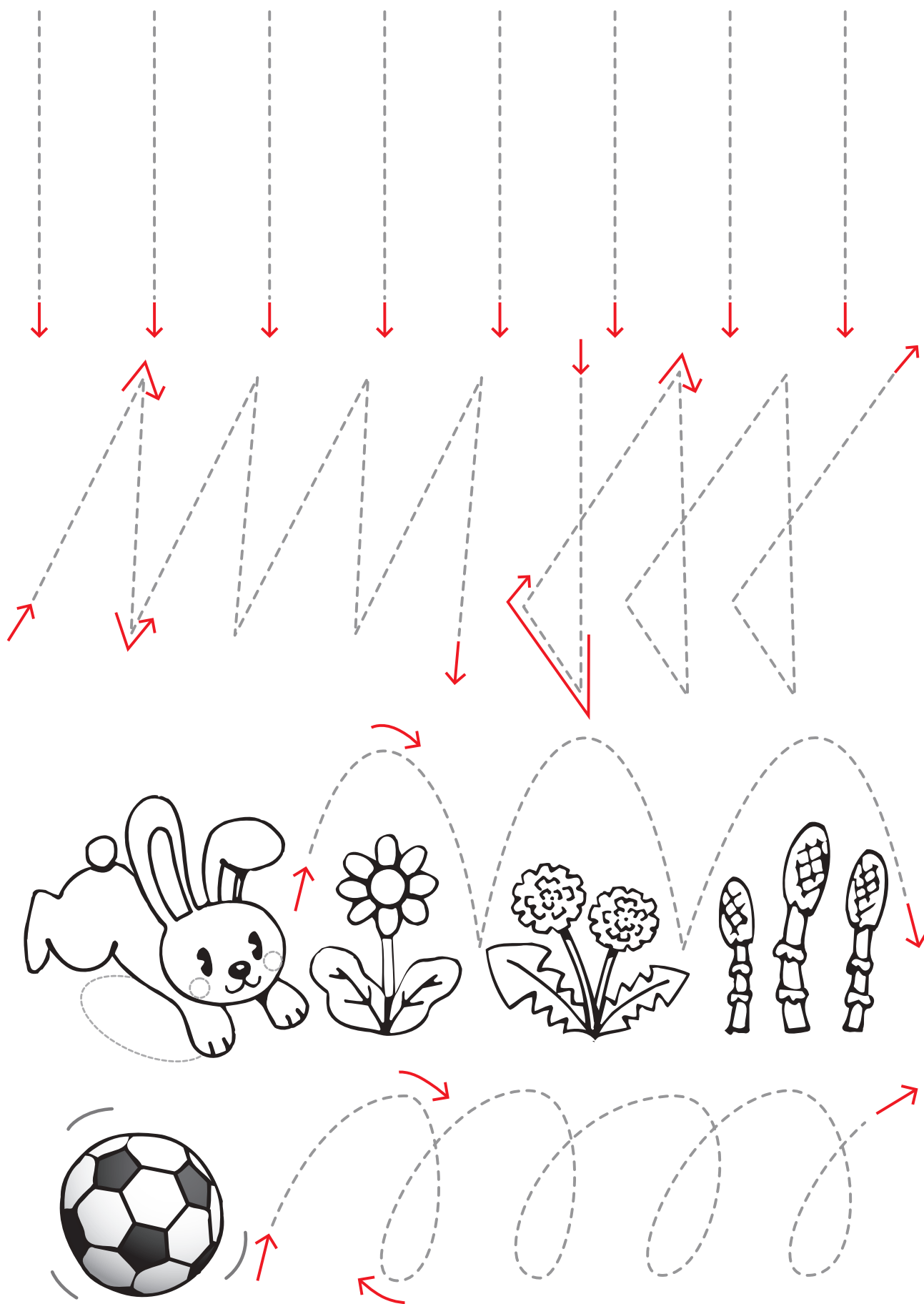
ただ、正しい鉛筆の持ち方は身に付けたいですね。持ち方が悪いと、書いている文字が見えにくくて鉛筆の先をのぞき込むようになり、姿勢や目を悪くすることがあります。また、指に無理な力がかかり、長時間の筆記に耐えられなくなったりします。正しい鉛筆の持ち方は、下の図を参考にしてみてください。また、手の動きが未発達で、筆圧も弱い低

〈最初が肝心！鉛筆の持ち方〉

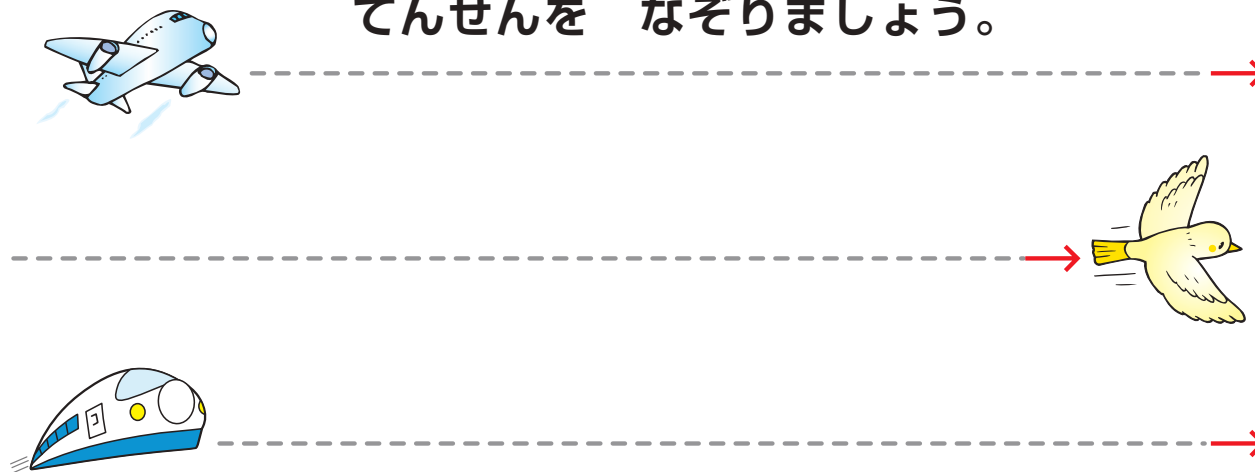


学年の子どもには、柔らかい鉛筆(2B)を使って大きく書くことをおすすめします。

えんぴつをただしくもって
ぬりえをしたり てんせんを なぞったりしましょう。

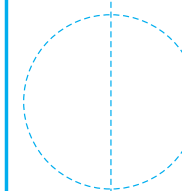


えんぴつをただしくもって
てんせんをなぞりましょう。



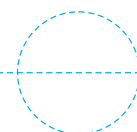
♥ えんぴつを ただしく もって なまえを かいて みましょう。

な ま え



くみ ばん

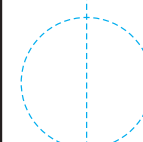
な
ま
え



くみ ばん

な
ま
え

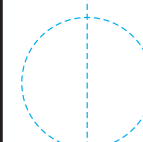
な ま え



く
み

ば
ん

な ま え



く
み

ば
ん



©静岡県

◆給食献立表の活用術

「なあんだ、家でもカレーか!」「?」。そう、給食がカレーで夕食もカレー……なんてことがときどきおこります。こんなことを防ぐために、冷蔵庫などに献立表を貼っておくとよいです。

また、献立表を自分の家の夕食の献立の参考にもしました。「給食おいしかったよ」と子どもが話した日には献立表にチェックをしておき、家でも作ってみました。子どもが、とても喜びました。

◆文房具の選び方

ノート、鉛筆類は入門期の指導がしやすいものを学校で指定します。早く買い過ぎて、むだにならないようにしましょう。

消しゴムや下じきなどは、子どもの気が散りやすいキャラクターものはさけ、無地に近いものを選びましょう。

その7

遊びが大事 トラブルも大事

幼児期は、主として遊びの中で、主体性や思考力・判断力・表現力などが育ちます。また、自分と友達との違いに気づいたり、協力することのよさや楽しさを実感したりします。

でも、大勢の子と遊ぶようになると、当然、トラブルも発生します。

子ども同士のトラブルに出合ったときは、すぐに大人が入って止めてしまうのではなく、少し静観し、暴力が出そうなきや、いつまでも収まらないようなときに、介入しましょう。「なにがあったの?」「どう思ったの?」「相手の話を聞いてどう思った?」「二人はこれからどうしたいの?」などと両者に穏やかに尋ね、お互いの思いを伝え合わせていきましよう。そのうちに、子どもは落ち着き、よい解決方法や新ルールを提案します。また、自分の気持ちも少しずつコントロールできるようになります。

トラブルは、実は、人との関わり方を学ぶ絶好の機会でもあるということです。



◆緊急時のメール 一斉配信に登録

緊急時の連絡は、携帯電話やパソコンのメール一斉配信が一般的になっています。子どもに対する声かけなどの不審者情報や台風などの自然災害時の登下校情報について、学校や学年全体として保護者に知らせたい事柄が配信されます。4月に、メール一斉配信の利用登録の案内が配布されます。すぐに登録しておきましょう。

その8

正しく記入、 学校提出書類

入学するにあたって、学校に提出する書類がいくつかあります。この書類に記入するときには、「正しくていいに」を意識して書きましょう。

家庭調査や保健調査票(学校によって名称は異なります)などにはできるだけ詳しく書きましょう。「子どもの特徴」「子どもの健康に関すること」「担任への要望」は、現在気づいていることをありのままに書いておくと、担任や保健室の先生が子どもを理解するための手助けになります。保護者の思いが担任や保健室の先生に伝わり、先生がたの子どもに対する理解が深まれば、子どもは安定した学校生活を送ることができます。

◆先輩保護者からのアドバイスコーナー

◆入学式に着る服は…?

息子の入学式に何を着せるか悩みましたが、わが家は白いポロシャツに紺色のカーディガン、半ズボンにしました。スーツにネクタイという子もいましたが、その後普通に学校に着ていくことができ、経済的にもよかったと思います。靴も新しい運動靴にしましたが、大正解でした。

◆家庭訪問はいいチャンス!

1年生の家庭訪問では、まず、先生から家での子どものようすを質問されました。それから、うちの子は食が細いので、給食の時間を心配していることを話しました。そうしたら、給食のときに先生が配慮してくださいました。家庭訪問は、親の考えを伝えることができるいいチャンスです。

◆連絡帳や音読カードの活用

子どものことで心配なことがあるときは、連絡帳を活用しました。先生が親身になって相談に乗ってくださって、安心しました。音読カードにも、感想だけでなく、お手伝いをしてくれたことやきょうだいの面倒を見てくれたことなど、子どものささいなことでも書くとよいですよ。

◆帰宅時にひと工夫!

家庭の事情もあると思いますが、帰宅時に「おかえり」と迎えてあげる人がいるといいなと思いました。仕事や用事で無理なときは、テーブルの上におやつと手紙を置いておくようにしました。ウサギの絵を描いて、吹き出しに「おかえり～。おやつをたべて、まってね!」と書いておくと、子どもが喜びました。

①寝る時刻,起きる時刻を決めよう

②早寝早起きの練習をしよう

③ゲームの時間も相談して決めよう

- 生活リズムを整えましょう。夜遅くまで起きていると次の日の学習意欲や学習への集中度に影響が出やすくなります。
- 子どもが考えて「寝る時刻,起きる時刻」を決めると,守ることへの意欲が高まります。(10時間以上寝よう。)
- ゲームを楽しむ時間についても,この時期に1日何分までと家族で相談して,子どもに決めさせることをお勧めします。その際,ゲームが子どもに及ぼす影響についても,説明してあげましょう。



きめたよ！
れんしゅうするよ！

- ねるじこく ()じ()ふん
- おきるじこく ()じ()ふん
- インターネットやゲームのじかん 1にち()ふん

もうすぐ1年生

できるかな

お子さんと一緒に
やってみてください

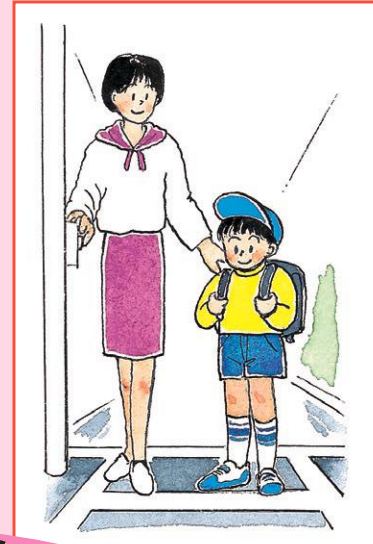
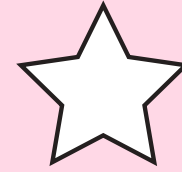


おうちの人と
いっしょに
やってみよう

できたら★に色をぬろう

つうがく 3 ある 通学路を歩いてみよう

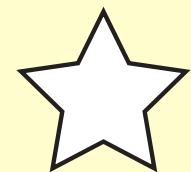
- 家から学校までの距離や通学路の状況にもよりますが,入学前に子どもと一緒に歩いてみるとよいですね。「ここに集まるんだよ」「ここで止まって右左を見て」「踏切では……」「この道は……」「ここが子どもを守る家。何か困ったことがあったら,このおうちに行くのよ……」というように,集合場所・信号・危険箇所・所要時間・子ども110番の家などを子どもと一緒に確認しておきましょう。ランドセルを背負って歩いてみるのもよいですね。
- 登校班通学の場合は,子どもと一緒に上級生に「よろしくお願いします」とあいさつをして顔見知りになっておくともよいですね。



イラスト／おなごしん

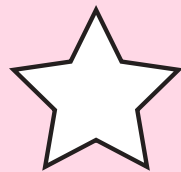
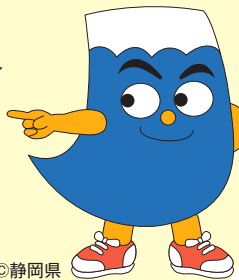
ひょういん い 病院に行っておこう

- 治療勧告書をもったら,入学前に専門医に診てもらいましょう。
- 慣れない学校生活は疲れます。でも,子どもにはやりたいことがいっぱい。放課後,友だちと遊んだり,ゆっくり過ごしたりするためにも,早期に治療をしておきましょう。



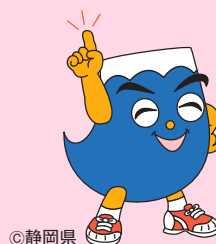
わ しきすいせん 和式水洗トイレの 練習をしよう

- 和式水洗トイレの経験のない子は,下着の降ろし方,事後の処理,汚物の流し方などについて,和式水洗トイレのある施設などで練習しておくことをお勧めします。



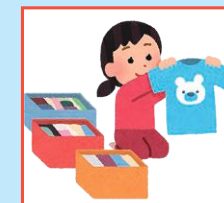
かたづ 片付けの練習をしよう

- おもちゃやはさみ,のりなど使ったものは,決めた場所に戻しておく,次に使うときに,すぐに取り出せます。このことが,次の学習への取り組みをスムーズにします。
- 子どもと一緒に片付ける場所を決め,何を片付ける場所かがわかるようにシールなどで目印をしておくのも1つの方法です。くり返し根気強く日々の片付けを応援しましょう。



ふく 服をたたむ練習をしよう

- 自分の服を自分でたたみ,机の上に置いたり,体育袋に入れたりすることができると,次の行動に容易に移ることができます。また,友達のものと一緒にになってしまって困ったということが避けられます。
- 何度もくり返し練習するうちに,うまくたためるようになります。



も もの なまえ が 持ち物に名前を書こう

- 子どもの学用品に名前を書いたり,シールを貼ったりするとき,子どもとお話しながら一緒に行くと,子どもの学校への期待感が高まります。
- 記名するものがたくさんあるので,何日かに分けて書くとよいですね。
- 水がかかってもにじまない筆記用具を使って書きましょう。



学校での表れや心配なこと

友達、できるかな

友達はいろいろな活動を通して、だんだんにできていきます。入学当初は、今までなじんできた友達と別のクラスになって大ショックという子どももいます。隣の子のちょっとした一言が気になることもあります。同じクラスの子どもの名前が出たら、楽しそうに話を聞いてあげましょう。でも、何日も元氣なく帰宅したり、友達に嫌なことをされたという訴えがくり返されたり、友達が遊びに来なくなったりする状態が続くときは心配です。そんなときは、放課後、友達が遊んでいる場所に子どもと一緒に行って、子どもがみんなと遊ぶのを見守ってあげるのも一つの方法です。

また、担任に相談することも必要ですね。



発表、できるかな

6歳の子どもであっても、見たり、聞いたり、体験したりしたことについて、必ず何らかの思いや感想を持っています。それを清々と発表できる子もいれば、「友達の前で発表するのははかしい」と、消極的な子もいます。「自分の考えが間違っていないか」「みんなの考えと違ってないか」などという不安な気持ちに先に立ってしまうのだと思います。日ごろから、「自分の気持ちを素直にお話していいんだよ」「友達の思いや考えと違っていいんだよ」と、教えてあげるとよいですね。

考え方や感じ方が違うからこそ、学びは深くなっていくものです。違いを大事にすることで、互いの良さを実感することもでき、友達との人間関係もより良いものになっていくことでしょう。



給食、食べられるかな

「今日の給食、何かしら?」「うちの子、みんなと同じ速さで、残さず食べられるかしら?」などと心配になりますが、大丈夫です。4月は、4時間目の授業の途中から給食の準備が始まります。担任は、時間をかけて、手の洗い方、配膳の仕方、食べ方、片付け方等々を指導します。また、子どもの食べる様子を観察し、少食の子や食べる速さがゆっくりの子には、食べる量を加減したりもします。好き嫌いも、担任の指導と励ましによって、少しずつ食べようとするようになっていきます。また、残飯やこぼしたものの処理も、自分でうまくできるようにしていきます。(ご家庭でも練習するとよいですね。)



宿題、できるかな

宿題が出るようになると、いよいよ小学生活もほぼ通常のペースになります。

1年生の宿題の大事な目的は、家庭で落ち着いて学習する習慣を身に付けることにあります。そして、その習慣化には、おうちの方の協力がとても重要です。

「宿題やったの?」「今日の宿題は何?」「早くやらない!」は禁句です。学校のできごとを共感して聞くうちに、子どもが宿題のことを自ら話すような雰囲気をつくれるとよいですね。そして、子どもが宿題を始めたなら、「宿題やっているね。いいね。」「がんばってるね。」などと言いつつ、笑顔で横に座ってみましょう。子どもは大喜びです。

本読みの宿題が出たら、聞きながら「お話がよくわかったよ。ありがとう。」など、ほめてください。また、担任から「本読みの様子を書いてください。」とお願ひされたら、いいところをたくさん書いてあげてください。子どもは、本読みや宿題を楽しく思うようになれるでしょう。

この時期に、宿題をする時間(長くなってよい)や場所を家の人と子どもとで話し合って決めて、一緒にすることが、学習の習慣化につながります。



©静岡県

◆学年(学級)だよりの利用

学年だよりに、週間(月間)の予定が書かれています。また、子どものようす、担任の考え方も書いてあります。明日の準備に必要なことはもちろんですが、今日の学校での活動の見当もつき、子どもとの会話の材料にもなります。「1年生を迎える会は、どんなことをしたの?」「そうよかったね。明日は○○があるね。楽しそうだね。」こんな会話が、明日への期待をふくらめるとともに親子の絆を強くします。

◆前日の持ち物点検

授業のとき、忘れ物に気づいた子どものショックは大きいものです。そこで、前日に、子どもと一緒に持ち物を点検しましょう。学年だよりの予定帳を見れば、明日必要なものがわかります。初めのうちは、家の人と一緒にやりながら持ち物準備や点検の仕方を子どもに教えてあげましょう。慣れてきたら家の方は手をひき、子どものやり方を見守るといいですね。

◆授業の基盤づくり

1年生の4月は、学校生活に慣れることと授業の基盤をつくることが主眼です。登校すると、子どもたちは、まずランドセルの中の物を机の中に入れ、ランドセルをロッカーにしまします。授業では教科書とノートと筆箱を机に出し、そして、良い姿勢。これができたところから授業が始まります。

◆帰宅が遅くて心配なとき

怖い事件が報道されるたびに自分の子を案じるのが親心。帰宅が遅くて心配なときは、まず学年(学級)だよりの見えて、今日の帰宅予定時刻を確認しましょう。次に同級生の家に連絡をし、友達が帰宅しているかを確かめてから学校に連絡するという順番で、すみやかに対処しましょう。学校に慣れるにしたがって子どもの寄り道は増えがちです。子どもの安全な下校について親子でときどき話題にしてみましょう。



©静岡県

◆学習内容

学校で学習する内容は基礎的なものに絞られています。そして、授業や活動に主体的に取り組むことや、友達との対話を通して自分の考えを深めていくことが重視されています。そのために、人の話をしっかり聞くことや自分の考えをつくって人に伝えることが大切に指導されています。また、体験したり、ブロックやおはじきなどを使ったりして、実感、納得しながら学習を進められるようにしています。

こななこも心にとめて

ゆったり構えて、安心感を

生活のリズムが大きく変わり、初めてのこ
とばかりの緊張する毎日に、子どもはとも
疲れます。

疲れが解消できないと、目覚めが悪かった
り、食が進まなかったり、登校を渋ったりす
ることがあります。

そんなとき、大人はとも心配になります
が、ゆったり構えて、子どもを抱きしめたり、
優しく背中をなでたり、夜早く布団に入って
読み聞かせをしたりして、安心感を持たせて
あげましょう。また、「早く、早く」と急か
すことを控え、笑顔で穏やかに関わりまし
う。怒ることは、逆効果です。

登校を渋るなどの気になる表れが続いたと
きは、担任に連絡し、学校と家とで協力し
て、子どもを育てていきましょう。



気持ちを受け止めて

子どもがなんとなく沈んだ顔つきだつた
り、涙をぬぐった跡があったり、泣いたりし
ていると、心配になります。

そんなときには、落ち着いて「どうした
の?」と言って、あったことを聞き取り、「そ
れはつらかったね(悲しかったね、怖かった
ね)」と子どもの感情に共感します。いつま
でも泣き続けたり、かんしゃくを起こしたり
しているときは、気持ちをうまく言葉にでき
ないのかもしれない。「〇〇が心配だつた
んだね」「〇〇が嫌だったんだね」と気持ち
を言葉にしてあげましょう。でも、根掘り葉
掘り聞き出そうとしたり、保護者自身の感情
を重ね合わせて一緒に泣いたり怒ったり
することは、避けたいですね。保護者の不安
は増幅して子どもに跳ね返るからです。

子どもは、気持ちを聞いてもらおうと落ち着
き、安心し、元気になって、次の一歩を歩み
出します。子どもの悩
みも成長の一過程です。
とはいえ、この重大
性に思い当たったとき
には、すぐに担任に連
絡しましょう。

©静岡県



失敗は成長のチャンス

乳幼児の遊びは、生きることそのものです。
見えるもの、聞こえるものに敏感に反応し、
手にしたものは口に入れて確かめようとしま
す。そうして、自分を取り巻く様々なものの
存在と、自分との関わりを学んでいるのです。
そのエネルギーは生まれながらにもっている
知的好奇心です。

小学生になっても、子どもは、何にでも興
味・関心を示し、自ら進んで探索していきま
す。そこには危険が伴います。また、生まれ
て初めて出会う世界ですから、失敗の連続で
す。しかし、子どもは失敗にへこたれません。
同じことに何度も何度も挑戦します。そして、
自分の力で何とかやり遂げたとき、満面の笑
みを浮かべ、親や教師に「やったよ! でき
たよ!」とアピールします。そうして、自分
への自信を高めます。

危険への配慮は必要ですが、「失敗こそ学
び時」「失敗は成長のチャンス」と捉え、価値
ある失敗を摘み取らないようにしましょう。



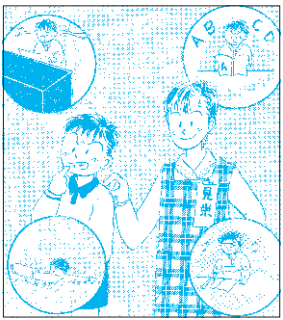
©静岡県

わが子をよく見て

子どもの特性を伸ばそうとする習い事も、
過密だったり興味のないことだったりすると
子どもの負担になります。いい子に育てよう
とする小言も多すぎると、子どもは自分で考
えようとしなくなったり、大人の顔色を見て
動くようになったりします。チックや脱毛、
爪噛みなどで困り感を訴えてくることもあり
ます。

情報過多の時代。「あれもこれも」と、子ど
もに過剰な要求をしないようにしたいです。
また、自分の子どもとよその子どもとを比
べて、一喜一憂したり、怒ったりしないよう
に気をつけましょう。

大事なことは、わが子にはわが子のよさが
あり、わが子なりの興味を示す対象や時期が
あり、成長のペースがあるということです。
わが子の育つ力を信じて、わが子のよさや
成長(1か月前、1年前のわが子の姿と比べ
て)、努力する姿、主体性などに注目し、「い
いね」がたくさん伝えられるとよいですね。



◆休日の過ごし方

公立の図書館・公民館・博物館・児童館など
でさまざまな催しが企画
されています。スポーツ
少年団・子供会などの団
体に加入することもでき
ます。休日を有効にすご
すために、家の人もでき
るだけ子どもと一緒に参
加し、多くの方と交流を
深めましょう。役に立つ
情報をもらえることもあ
ります。

また、日曜日の夜も普
段どおり早く寝かせ、月
曜日の朝に疲れが残らな
いように心がけましょう。

悩みは一人で

抱えこまないで

子育て中には、いろいろな心配ごとや悩み
ごとが生まれます。それは、子どもを深く愛
し、幸せを心から願っているからです。

でも、心配ごとや悩みごとは、その人の感
じ方や考え方で大きな不安やストレスとなっ
て、心の大部分を占めてしまうことがあります。
そのことが、子どものストレスに繋がっ
てしまうということもあります。

心が不安や悩みでいっぱいになりそうとな
きは、「子どもは現在成長途中! 気になるこ
とは、あって当然。ゆったり気長に育てよ
う」と考えると気持ちに少しゆとりが出てき
ます。あわせて、不安や悩みを自分一人で抱
え込むのではなく、家族や友人、先生など、
親身になって相談に乗ってくれる信頼できる
人に相談しましょう。きっと、悩みを解決す
るヒントを得たり、安心したり、勇気が湧い
てきたりします。学級懇談会やいろいろな場
所に出ることも、心配ごとを気軽に相談でき
る人をつくる一つの方法ですね。

◆個人の秘密は守ります

教職員(公務員)には職務上知り得た個人の秘密を外部
に漏らしてはいけない義務があると法律で決められてい
ます。「学校へ提出する書類に、こんなことを相談して
他人に知られないかしら」などという心配はいりません。
それよりも、子どもが豊かな学校生活を送ることを考え
て、現在の正直なところを記入したり、担任に伝えたり
するほうがよいでしょう。



©静岡県

◆放課後児童クラブ

放課後に保護者が家庭にいない児童を対象に、家庭に
代わって有料で保育する制度が各自治体で行われています。
地域によって対象学年や受け入れ時間はいろいろの
ようですが、通学する学区の放課後児童クラブ等につい
て、一度確かめてみましょう。



©静岡県



©静岡県



©静岡県



静岡県教育事業団体

感動 発見 喜び
～本物との出会いから～
学校巡回公演「スクールコンサート」



一般財団法人
静岡県教職員互助組合

教職員の
生活をサポート



静岡県教職員生活協同組合

安心・安全な
教材・教具の開発・選定



静岡県学校生活協同組合連合会

私たち
教育事業団体は
みなさまの
サポーターです!



教育研究の
サポーター

一般社団法人 静岡県出版文化会



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部
公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部

夢広がる、
子どもたちのために
静岡教弘

静岡県の子どもに
「静岡県産」の教材を!!



本冊子の画像データ
は左のQRコードから



本冊子のご意見、ご感想
を右のQRコードから
お寄せください